

吉本新喜劇時代に、お世話になった芸人さんがいました。舞台後にずっと一緒に遊んでいた信頼のおける先輩でした。「稼ぎがないから牛丼や立ち食いソバしか連れていけないでごめんね」と言いながら支払いを済ませる優しい先輩との食事は、どのごちそうにも負けないすてきなものでした。



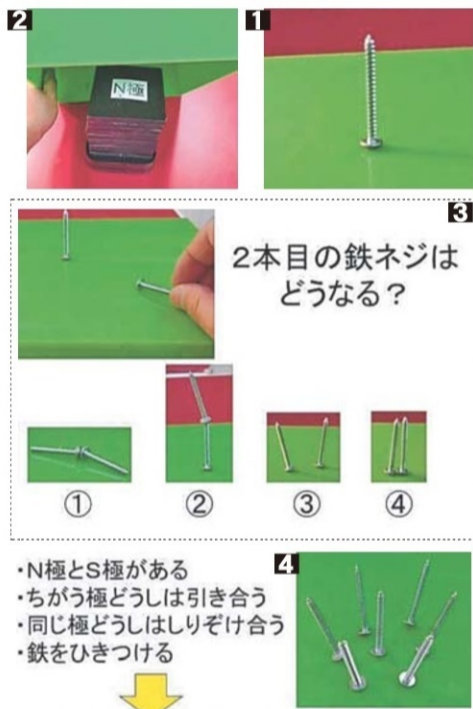
しかし、とある日からその先輩は、私との関わりを避けるように

③7 答えを言わない



なりました。私には心当たりはありません。前のように仲良くなりたいたいと思いつき話しかけますが、全く空振り…。心がどうにかかなりそうなくらい落ち込みながら、ずっと自分の落ち度を考えます。そして、考えられる失礼を一つ一つ修正していきます。無意識に失礼があった可能性も考え、それ以降、自分の言葉・行動すべてを意識するようになりました。そして、1年たったころ、自然にその先輩との関係が修復しました。

なんで？
が、考え続ける秘訣に



小学校3年生で習う内容を生かして考えよう

から理由を聞くことは出来ませんでした。しかし、答えが分からないの人の関わりの中で、常に考え

行動するようになっていました。

これは教育にも共通して言えます。「答えを教えないからこそ、子ども達が考え続けることができ」のです。

いきなりですが、クイズです。

「なぜ鉄ネジは立っているのでしょうか？」
||写真1

答えは下に強力な磁石があるからです ||写真2。

今、箱の上で鉄ネジが立ちました。さて「2本目はどうなる？」

①倒れて横にくっつく

②最初の鉄ネジの上に乗る

③離れて立つ

④くっついて立つ

さて、どれでしょう？ ||写真3

正解は③番です。鉄ネジと鉄ネジは離れて立ちます。さらに鉄ネジを置いていくと…。

全ての鉄ネジが離れて立ちます。しかも等間隔です。ここですらに問題です。

「なぜ鉄くぎと鉄くぎは離れて立つのでしょうか？」 ||写真4

この現象は小学校3年生の「磁石」の単元で習う知識で答えることが可能です。ヒントは「下に磁石があるから」「S極・N極という言葉で説明ができる(強力磁石の上側はN極)」「答えはあえて言いません。皆さんも考えてみてください。※答えは来月の本コラムで書きます。